

C・G・ユング著作邦訳文献目録（1918—1989）

—C.G.Jung Bibliographie (*Die Gesammelten Werke von C.G.Jung, 19.Bd.*), Japanische Übersetzungen への補遺—

磯 前 順 一
和 田 光 俊

1. はじめに

C・G・ユングについては、わが国に紹介されてから久しく、現在ではその著作の邦訳も多く出版されている。しかし、それらは個々に出版されているために各々の繋がりを知ることができないし、中には邦訳の元となった原書が明らかでないものもあり、これらをユングの膨大な著作の中にどう位置付けたらよいか分からない状態にある。

一方、現在ドイツ語および英語で出版されているユング全集は、ユングのほとんどの著作をテーマごとに集めており、ユング著作を系統的に扱うための基準とすることができる。そこで、現在までに邦訳されているユング著作をすべて調べあげ、それらがユング全集中のどの部分に相当するかを調査することにした。

ここで作られたユング著作邦訳文献目録は、原語で読むことが困難な初学者にとっての文献案内となると同時に、研究者にとっても引用の際や訳語の統一を図る際の参考文献目録として有用であろうと思われる。

ユング関係の邦文献目録は、日本ユングクラブが機関誌『プシケー』に発表したものや、いくつかの本の付録等に見られるが、比較的古いものや雑誌に掲載されたものについては不完全である。また、ドイツ語版・英語版ユング全集第19巻のビブリオグラフィーにもユング著作日本語訳の文献目録があるが、

こちらは逆に古いものしか載っておらず、最近のものまでは載っていない。これらを合わせ、同時に今までの目録には載っていなかったものをも含めて今回の目録は作製されている。

今回作製したユング著作文献目録は、便宜上ユング全集第19巻の形式にしてある。このため、この文献目録はユング全集第19巻の日本語訳著作目録の部分への補遺とも見ることができ、アルファベットに直せばそのままドイツ語版・英語版ユング全集に載せられる形になっている。

この邦訳文献目録の後には、少し長くなるがドイツ語版ユング全集各巻の目次を併載してある。この目次により、ユング全集全体の構成を知ることができるだけでなく、どの論文に邦訳がありどの論文に邦訳がないかが分かるようになっている。また、この目次には、論文名以外にも、その論文が最初に書かれた年、最初の出版年、ドイツ語版全集が採録した版の出版年等を新たに加えてある。その論文がいつ書かれたものかは時期による傾向を見る際などには重要である。また、書かれた年と出版年が大きく違っている場合もあるし、ユングの場合は書き替えも多いのでどの版かということも重要である。従来 of 全集目次に載せられた年号が何を示しているかは必ずしも明らかでなく、また統一されてもいない。ここに載せた全集目次は、年号の部分

だけでも利用価値があると思われる。

以下に「ユング著作邦訳文献一覧」と「ドイツ語版ユング全集目次」を掲載する。これらは、まず磯前が原型となるものを作り、和田が詳細を追加してまとめ上げ、記載したものを、再度磯前がチェックするというかたちで作製した。また、「ユング著作邦訳文献一覧 凡例」と「ドイツ語版ユング全集目次 凡例」、「はじめに」および「ユング著作の邦訳状況について」は、和田が担当した。

2. ユング著作邦訳文献一覧

この邦訳文献一覧は、C・G・ユング全集 (Die Gesammelten Werke von C. G. Jung) 第19巻 BIBLIOGRAPHIE, I. Die veröffentlichten Schriften von C. G. Jung: Originalwerke und Übersetzungen” 中の Japanisch (日本語訳) の項に準じて作成されている。1979年の英語版全集第19巻 (Princeton University Press) では1973年分まで、1983年のドイツ語版全集第19巻 (Walter-Verlag) では1976年分までの邦訳文献しか記載されていないが、この邦訳文献一覧はそれを補ったものである。

また、この邦訳文献一覧には、それぞれの文献がどの文献からの邦訳であるかだけでなく、それぞれがドイツ語版全集のどの部分に対応するかについても記してある (英語版全集の番号の振り方もドイツ語版全集とほぼ同じである)。これと「ドイツ語版ユング全集目次」とを合わせることで、ユングの著作全体の中での位置付けを知ることが容易になるとと思われる。

今回のこの邦訳文献一覧を作成する際には、日本ユングクラブ事務局編「C・G・ユング関係邦文文献目録」『ブシケー』1号 (思索社1982) および「C・G・ユング関係文献目録追補」『ブシケー』2～8号 (同社1983～1989)、G・ヴェーア著、山中康裕・藤原三枝子訳『ロロロ伝記叢書 ユング』(理想社1987) 中の「ユング関係邦訳・邦文文献一覧」

などを参考にした。

この一覧中の邦訳文献には全て実物に当たって確認した。また、ここに掲載されていない文献を御存知の方は御教示下されれば幸いである。

なお、この邦訳文献一覧は1989年12月までに確認できたものに基づいている。

<凡例>

- 1999x 『著書名』(シリーズ名等) 訳者名 出版都市名 出版社名 ページ数 原書番号 [全集番号] (関連文献等)
1. 「タイトル」訳者名 (ページ) 原書番号 [全集番号]
- 1999x 「タイトル」訳者名 『雑誌名』号数 [巻一号] ページ 出版社名 原書番号 [全集番号] (関連文献等)

- ① 文献は出版年順に並べられており、同一年のものは更にアルファベットを付加して区別してある。(一部を除き、同一年の出版の場合は月日の早い順になっている。)
- ② 原書番号は、邦訳の元になった文献 (原書) を示すものであり、ユング全集第19巻中の文献番号に対応している。例えば、D.1946b,3はドイツ語の文献1946年のbの第3章を、E.1967aは英語の文献1967年のaを表す。GWはドイツ語版ユング全集、CWは英語版ユング全集である。邦訳に原書として第2版以降のものを用いた場合で、その出版年が明記してある場合にはその年号を括弧 () の中に表示してある。
原書が不明のものについては?を付し、ユング全集第19巻中に載っていないものについては番号ではなくその文献名を表示してある。
- ③ [] 中の番号は全集番号であり、ドイツ語版ユング全集の巻と章を表している。例えば、GW8,7 は第8巻の第7章を示す。全集第9巻はIとIIに分かれているため、それぞれをGW9/IとGW9/IIで区別してある。

なお、原書がもともと全集であるもの（GW, CWとも）については、原書番号と全集番号が同一となるため、[]の中に全集番号は改めて表示はしていない。また、『ユング自伝』、『フロイト／ユング往復書簡集』のように全集に含まれていないものについても全集番号の表示はない。

④ 関連文献等の中で他の邦訳文献を表すときは、先頭にJを付けてJ.1926aのようにして表記してある。

1918a 「精神病学に於ける人本主義的運動（上）」小熊虎之助訳 『心理研究』第73号[13-1] pp.76-90 心理学研究会 E.1916a,14 [GW3,2] (J.1918bに続く)

1918b 「精神病学に於ける人本主義的運動（下）」小熊虎之助訳 『心理研究』第74号[13-2] pp.57-72 心理学研究会 E.1916a,14 [GW3,2] (J.1918aの続き)

1926a 「ユング論文集 連想実験法 其他」中村古峽訳『近世変態心理学大観 第10巻』pp.1-302 東京 日本変態心理学会 E.1916a

1. 「序文」(1-6) E.1916a,1 [GW4,13,a]
2. 「連想実験法」「連想実験法」(1-36) E.1916a,3,1 [GW2,10]
3. 「 " 」 「家族的星座」(36-54) E.1916a,3,2 [GW2,11]
4. 「 " 」 「子供の心理的生活に関する諸経験」(54-89) E.1916a,3,3 [GW17,1]
5. 「個人の運命に於ける父の意義」(91-119) E.1916a,4 [GW4,14]
6. 「精神分析法私見」(121-161) E.1916a,8 [GW4,10]
7. 「精神分析法に於ける二三の要点に就いて」(163-229) E.1916a,10

[GW4,12]

8. 「精神病理学に於ける無意識の重要性に就いて」(231-243) E.1916a,11 [GW3,4]
9. 「夢の心理」(245-264) E.1916a,13 [GW8,9]
10. 「精神病者の内質」小熊虎之助訳 (263-302) (J.1918a, J.1918bと同じ)

1927a 『ユング論文集 連想実験法 其他』中村古峽訳 東京 日本精神医学会 pp.302 (J.1926aと同じ)

1931a 「生命力の発展」中村古峽訳 『世界大思想全集 第1期44』 pp.1-298 東京 春秋社 E.1916b [GW5,4] 第一篇

1. 「緒言」(7-9) E.1916b,2 [GW5,4,Erst.,I]
2. 「二種の思考に就いて」(9-31) E.1916b,3 [GW5,4,Erst.,II]
3. 「ミラーの空想」(31-33) E.1916b,4 [GW5,4,Erst.,III]
4. 「創世の讃歌」(34-56) E.1916b,5 [GW5,4,Erst.,IV]
5. 「蛾の歌」(56-82) E.1916b,6 [GW5,4,Erst.,V]

第二篇

6. 「リビドー概観」(83-89) E.1916b,7 [GW5,4,Zweit.,I]
7. 「リビドーの概念及び発生説」(90-100) E.1916b,8 [GW5,4,Zweit.,II]
8. 「リビドーの変形」(100-116) E.1916b,9 [GW5,4,Zweit.,III]
9. 「英雄の無意識的源泉」(116-139) E.1916b,10 [GW5,4,Zweit.,IV]
10. 「母の象徴と再生の象徴」(139-180) E.1916b,11 [GW5,4,Zweit.,V]

11. 「母から釈放のための戦」(181-200) E.1916b,12 [GW5,4,Zweit.,VI]
12. 「母の二重性質」(200-259) E.1916b,13 [GW5,4,Zweit.,VII]
13. 「犠牲」(259-298) E.1916b,14 [GW5,4,Zweit.,VIII]
- 1955a 『現代人のたましい』(ユング著作集2) 高橋義孝・江野専次郎訳 東京 日本教文社 pp.307 D.1931a (改装版1970年)
1. 「原著序」(1-3) D.1931a,1 [GW18,67]
2. 「近代精神治療学の諸問題」高橋訳(3-50) D.1931a,2 [GW16,6]
3. 「分析的心理学と文学作品との諸関係について」高橋訳(51-89) D.1931a,3 [GW15,6]
4. 「心の構造」江野訳(91-123) D.1931a,7 [GW8,7]
5. 「心と大地」江野訳(125-162) D.1931a,8 [GW10,2]
6. 「古代的人間」江野訳(163-204) D.1931a,9 [GW10,3]
7. 「心理学的関係としての結婚」江野訳(205-225) D.1931a,11 [GW17,8]
8. 「精神と生命」江野訳(227-260) D.1931a,13 [GW8,12]
9. 「現代人の魂の問題」高橋訳(261-304) D.1931a,14 [GW10,4]
- 1955b 『こころの構造』(ユング著作集3) 江野専次郎訳 東京 日本教文社 pp.254 D.1934b (改装版1970年)
1. 「原著序」(3-5) D.1934b,1 [GW18,113]
2. 「現代心理学の根本問題」(3-38) D.1934b,2 [GW8,13]
3. 「心理学の現代的意義」(39-79) D.1934b,3 [GW10,7]
4. 「夢分析の実用性」(81-120) D.1934b,4 [GW16,12]
5. 「文化史的現象としてのジークムント・フロイト」(121-134) D.1934b,6 [GW15,3]
6. 「ユリシーズ」(135-178) D.1934b,7 [GW15,8]
7. 「ピカソ論」(179-189) D.1934b,8 [GW15,9]
8. 「人格の形成について」(191-225) D.1934b,9 [GW17,7]
9. 「魂と死」(227-245) D.1934b,10 [GW8,17]
- 1956a 『人間心理と教育』(ユング著作集5) 西丸四方訳 東京 日本教文社 pp.253 (改装版1970年)
1. 「分析心理学と教育」(3-109) D.1946b,1 [GW17,4]
2. 「子供の心理的葛藤について」(110-157) D.1946b,2 [GW17,1]
3. 「秀才」(158-174) D.1946b,3 [GW17,5]
4. 「お伽噺の精神の現象学」(175-250) D.1948a,2 [GW9/1,8]
- 1956b 『人間心理と宗教』(ユング著作集4) 浜川祥枝訳 東京 日本教文社 pp.306 (改装版1970年)
1. 「人間心理と宗教」(3-220) D.1940a [GW11,1]
2. 「東洋的瞑想の心理学について」(221-254) D.1948a,5 [GW11,14]
3. 「ヨーロッパの女性」(255-299) D.1929a [GW10,6]
- 1956c 『人生の午後三時』高橋義孝訳 東京 新潮社 pp.190 D.1943a(1948) [GW7,1] (復刻版J.1977c)
- 1957a 『人間のタイプ』(ユング著作集1) 高橋義孝訳 東京 日本教文社 pp.305

- D.1921a [GW6,3] (改装版1970年)
1. 「タイプの一般的敘述」(3-147)
D.1921a,X [GW6,3,X]
 2. 「定義」(148-285) D.1921a,XI
[GW6,3,XI]
 3. 「結び」(286-301) D.1921a,
Schlußwort [GW6,3, Schlußwort]
- 1960a 「ユング博士の禪観」浜中英田訳『金剛經の禪・禪への道』(鈴木大拙禪選集4) pp.176-199 東京 春秋社
D.1939c [GW11,13] (新装版1975年)
- 1962a 「“禪”は根源的人間を示唆する」竹本忠雄訳 『論争』1962年 6月号[4-5] pp.102-105 論争社 E.1961c
- 1967a 「ブーバーの批判に答える」野口啓祐訳 M・ブーバー著『対話の倫理』
pp.185-205 東京 創文社 D.1952j
[GW11,17, GW18,96]
- 1969a 「ユング博士の禪観」浜中英田訳
『鈴木大拙全集』第13巻 pp.303-327
東京 岩波書店 D.1939c [GW11,13]
- 1969b 久松真一との対話「無意識と無心」辻村公一訳 『久松真一著作集』第1巻
pp.381-397 東京 理想社 (1958.
5.16 キュスナハトでの対話)
- 1972a 『ユング自伝—思い出・夢・思想
1』A・ヤッフエ編, 河合隼雄・藤縄昭・出井淑子訳 東京 みすず書房
pp.290 E.1967a (J.1973aに続く)
- 1972b M・—L・フォン・フランツ他と共著
『人間と象徴』河合隼雄監訳 東京
河出書房新社 pp.369 E.1964a
(再版J.1975d)
「無意識の接近」河合訳(13-110)
E.1964a [GW18,2]
- 1973a 『ユング自伝—思い出・夢・思想
2』A・ヤッフエ編, 河合隼雄・藤縄昭・出井淑子訳 東京 みすず書房
pp.276 E.1967a (J.1972aの続き)
- 1973b 「ユング教授による序文」池田紘一・石田行仁・中谷朝之・百溪三郎訳 J・ヤコービ著『ユング心理学』 pp.9-10 東京 日本教文社 D.1940c
(1959年版) [GW18,40]
- 1973c 「ヨーガと西洋」横山紘一訳 『中央公論』1973年 4月号[88-4] pp.458-464 中央公論社 ? [GW11,12]
- 1973d 「ユングとBBC放送ブラック氏との対談」萩尾重樹訳 E・A・ベンネット著『ユングの世界』 pp.222-239 東京 川島書店 E. A. Bennet, C. G. Jung. London : Barrie & Rockliff. 1961の訳
- 1973e 「東洋的思惟と西洋的思惟」高橋巖訳
『現代思想』1973年11月号 pp.151-166 青土社 GW11,10,1 (1963年版)
- 1974a 「C・G・ユング博士によるまえがき」吉元清彦・福士久夫訳 F・フォーダム著『ユング心理学入門』
pp.3-5 東京 国文社 E.1953a (1966年版) [GW18,46]
- 1974b 「人間知における類型問題」吉村博次訳 『同志社外国文学研究』第7・8

- 号 pp.325-343 同志社大学 D.1921a,IV ? [GW6,3,IV]
- 1974c 「心理学的類型」吉村博次訳 懸田克躬編『ユング フロム』(世界の名著統14) pp.75-216 東京 中央公論社 D.1921a [GW6,3] (ペーパーバック版『中公バックス世界の名著76』 1979年)
1. 「序言」(79-84) D.1921a, Einleitung [GW6,3, Einleitung]
 2. 「人間判定における類型問題」(85-108) D.1921a,IV [GW6,3,IV]
 3. 「類型総論」(109-205) D.1921a,X [GW6,3,X]
 4. 「むすび」(206-216) D.1921a, Schlußwort [GW6,3, Schlußwort]
- 1974d 「易と中国精神」中村健二訳 『ユリイカ』臨時増刊(総特集 オカルティズム) [6-9] pp.264-288 青土社 E.1950d [GW11,16]
- 1974e P・ラディン, K・ケレーニイと共著 『トリックスター』皆河宗一・高橋英夫・河合隼雄訳 東京 晶文社 pp.309
- 「トリックスター像の心理」河合訳(257-277) D.1954a [GW9/1,9]
- 1975a K・ケレーニイと共著『神話学入門』杉浦忠夫訳 東京 晶文社 pp.267 D.1951b
1. 「幼児元型の心理学のために」(101-138) D.1951b,1 [GW9/1,6]
 2. 「コレエ像の心理学的位相について」(203-228) D.1951b,2 [GW9/1,7]
- 1975b 「個人の運命における父親の意味」小川捷之訳 『現代のエスプリ』No.96 pp.100-107 至文堂 (部分訳) ? [GW4,14]
- 1975c 「心理学と文学」若林千鶴子訳 B・ギースリン編『三十八人の天才たち』 pp.390-418 東京 新樹社 The Creative Process. A Symposium, edited by Brewster Ghiselin, University of California, 1952 の訳 (E.1933a,8所収) [GW15,7]
- 1975d M・ーL・フォン・フランツ他と共著 『人間と象徴 上』河合隼雄監訳 東京 河出書房新社 pp.254 E.1964a (J.1972bの再版)
- 「無意識の接近」河合訳(17-158) E.1964a [GW18,2]
- 1976a 『分析心理学』小川捷之訳 東京 みすず書房 pp.300 E.1968a [GW18,1]
- 1976b W・パウリと共著『自然現象と心の構造』河合隼雄・村上陽一郎訳 東京 海鳴社 pp.270 E.1955a
- 「共時性：非因果的連関の原理」河合訳(1-146) E.1955a [GW8,18]
- 1976c 「共時性」高橋巖訳 『エピステーマー』1976年2月号[2-2] pp.126-136 朝日出版社 D.1952f [GW8,19]
- 1976d 『心理学と錬金術 I』池田紘一・鎌田道生訳 京都 人文書院 pp.324 D.1944a(1952d) [GW12] (J.1976gに続く)
1. 「初版まえがき」(7-8) D.1944a,1 [GW12,1]
 2. 「第二版まえがき」(9) D.1952d,1 [GW12,2]
 3. 「錬金術に見られる宗教心理学的問題」(11-63) D.1944a,2 [GW12,3]

- 2,3,1]
4. 「個性化過程の夢象徴」(65-315)
D.1944a,3 [GW12,3,11]
- 1976e 「空飛ぶ円盤」松代洋一訳 『エピステーマー』1976年 6月号[2-6] pp.94-108 朝日出版社 D.1958a,1 [GW10,15,1]
- 1976f 「マンダラの象徴表現」高橋巖訳 『エピステーマー』1976年 7月号[2-7] pp.146-158 朝日出版社 D.1950a,5 [GW9/1,12] (J.1977aに続く)
- 1976g 『心理学と錬金術 II』池田紘一・鎌田道生訳 京都 人文書院 pp.402 D.1944a(1952d) [GW12] (J.1976dの続き)
1. 「錬金術における救済表象」(7-350) D.1944a,4 [GW12,3,111]
 2. 「エピローグ」(352-363) D.1944a,5 [GW12,3,111]
- 1976h 『空飛ぶ円盤』松代洋一訳 東京 朝日出版社 pp.256 D.1958a [GW10,15]
- 1977a 「マンダラの象徴表現 承前」高橋巖訳 『エピステーマー』1977年 3+4月号[3-3] pp.182-196 朝日出版社 D.1950a,5 [GW9/1,12] (J.1976fの続き)
- 1977b 『エピステーマー』1977年 5月号[3-4] (特集 C・G・ユング) 朝日出版社
1. 「夢の本質」宮本忠夫・吉野啓子訳(8-22) ? [GW8,10]
 2. 「本能と無意識」平野具男訳(23-29) ? [GW8,6]
 3. 「母親元型の心理学的諸相」鈴木直訳(30-38) ? [GW9/1,4]
4. 「《太乙金華宗旨》注解の序」森川俊夫訳(39-52) D.1929b,1 (1965年版) [GW13,1]
5. 「ジークムント・フロイト」菊盛英夫訳(53-61) ? [GW15,4]
 6. 「フロイトとユングの対立」菊盛英夫訳(62-69) ? [GW4,16]
 7. 「現代史に寄せて」松代洋一訳(70-85) D.1946a,1, D.1946a,6 [GW10,9, GW10,13]
 8. 「ヴォータン」松代洋一訳(86-98) D.1946a,2 [GW10,10]
- 1977c 『無意識の心理』高橋義孝訳 京都 人文書院 pp.198 (J.1956cの復刻版)
- 1977d 「心理学と文学」若林千鶴子訳 『現代のエスプリ』No.122 pp.69-85 至文堂 (J.1975d所収)
- 1978a 「夢と超越機能」松代洋一訳 『エピステーマー』1978年 7月号[4-6] pp.119-135 朝日出版社 (部分訳) GW8,2
- 1978b R・I・エヴァンズへの手紙および対話 R・I・エヴァンズ著『無意識の探求—ユングとの対話』浪花博・岡田康伸訳 東京 誠信書房 pp.227 E.1964b
- 1978c 『現代のエスプリ』(ユング心理学) No.134 至文堂
1. 「現代心理学の根本問題」江野専次郎訳(39-58) (J.1955b所収)
 2. 「夢分析の実用性」江野専次郎訳(65-86) (J.1955b所収)
 3. 「お伽噺の精神の現象学」西丸四方訳(131-150) (J.1956a所収)
 4. 「錬金術の心的性質」池田紘一・鎌

- 田道生訳(163-172) (J.1976g所収)
5. 「現代史に寄せて」松代洋一訳(195-211) (J.1977b所収)
- 1978d 「エディプス・コンプレックス」松代洋一訳 『エピステーマー』1978年12号[4-11] pp.121-126 朝日出版社 GW4,9,6 (1979年版)
- 1979a 「序言」野田倬訳 G・アードラー著 『魂の発見』 pp.5-6 京都 人文書院 D.1934d [GW18,52]
- 1979b 『現代思想』臨時増刊(総特集=ユング) [7-5] 青土社
1. 「影との闘い」松代洋一訳(18-24) CW10,12 (1964年版) [GW10,12]
2. 「文学と心理学」松代洋一訳(25-41) D.1950a,2 [GW15,7]
3. 「人生の転換期」鎌田輝男訳(42-55) D.1931a,10 (1946年版) [GW8,16]
- 1979c W・マガフィナ編『フロイト／ユング 往復書簡集 上』平田武靖訳 東京 誠信書房 pp.414 D.1974a, E.1974b (J.1987fに続く)
- 1979d 『ユングの文明論』松代洋一編訳 東京 思索社 pp.254
1. 「現代史に寄せて」「はじめに」(9-10) D.1946a,1 [GW10,9]
2. 「 " " 」 「ヴォータン」 (11-30) D.1946a,2 [GW10,10]
3. 「 " " 」 「破局のあとで」 (31-66) D.1946a,5 [GW10,11]
4. 「 " " 」 「おわりに」(67-89) D.1946a,6 [GW10,13]
5. 「影との戦い」(91-104) CW10,1 2 (1964年版) [GW10,12]
6. 「インドの夢見る世界」(105-123) E.1939b [GW10,23]
7. 「インドに教わること」(125-134) E.1939c [GW10,24]
8. 「ヨーガと西洋」(135-149) GW11,12 (1963年版)
9. 「現在と未来」(151-237) D.1957i (1964年版) [GW10,14]
- 1979e 『分裂病の心理』安田一郎訳 東京 青土社 pp.308 (新装版1989年)
1. 「精神病の内容」(7-37) D.1908a [GW3,2]
2. 「心理学的了解について」(39-61) E.1915c [GW3,2,Nachtrag]
3. 「早発性痴呆症の心理学について」(63-295) D.1907a [GW3,1]
- 1980a R・ヴィルヘルムとの共著『黄金の華の秘密』湯浅泰雄・定方昭夫訳 京都 人文書院 pp.336 D.1957b (1973年版)
1. 「第二版のための序文」(7-11) D.1957b,1 [GW13,1]
2. 「リヒャルト・ヴィルヘルムを記念して」(13-30) D.1957b,2 [GW15,5]
3. 「ヨーロッパの読者のための注解」(31-111) D.1957b,3 [GW13,1]
4. 「ヨーロッパのマンドラ例」(112-122) D.1957b,3 [GW13,1]
- 1980b 『ユングの人間論』秋山さと子・野村美紀子訳 東京 思索社 pp.252
1. 「自我」(9-16) D.1951a,I [GW9/II,1]
2. 「影」(17-21) D.1951a,II [GW9/II,II]
3. 「シュジュギュイ アニマ・アニムス」(23-38) D.1951a,III [GW9/

- II, III]
4. 「自己」(39-56) D.1951a, IV [GW9/II, IV]
 5. 「夢の心理学」(59-116) D.1948 b, 4 [GW8, 9]
 6. 「意識 無意識 個性化」(119-138) D.1939e [GW9/I, 10]
 7. 「個性化過程の経験」(139-211) D.1950a, 4 [GW9/I, 11]
 8. 「マンダラ」(213-217) D.1955e [GW9/I, 13]
- 1981a 『ヨブへの答え』野村美紀子訳 東京ヨルダン社 pp.238 D.1952a [GW11, 9]
- 1981b 久松真一との対話「禅と精神分析」辻村公一訳 上田閑照編『禅の世界』pp.27-42 東京 理想社 (J.1969bと同じ)
- 1981c 『ユングの象徴論』秋山さと子編, 野村美紀子訳 東京 思索社 pp.290
1. 「メルヘンの精神現象学」(9-69) D.1948a, 2 [GW9/I, 8]
 2. 「新生について」(73-118) D.1950a, 3 [GW9/I, 5]
 3. 「集合無意識の概念」(121-137) E.1936d, E.1937b [GW9/I, 2]
 4. 「集合的無意識の元型について」(138-189) D.1954b, 2 [GW9/I, 1]
 5. 「元型とくにアニマの概念について」(190-212) D.1954b, 3 [GW9/I, 3]
 6. 「心理学から見た母の元型」(213-255) D.1954b, 4 [GW9/I, 4]
- 1982a 『心霊現象の心理と病理』宇野昌人・岩堀武司・山本淳訳 東京 法政大学出版社 pp.159
1. 「心霊現象の心理と病理」(1-123) D.1902a [GW1, 1]
 2. 「潜在記憶」(125-141) D.1905a [GW1, 3]
- 1982b 『元型論』林道義訳 東京 紀伊國屋書店 pp.242
1. 「集合的無意識の概念」(9-28) E.1936d, E.1937b [GW9/I, 2]
 2. 「集合的無意識のいくつかの元型について」(29-90) D.1954b, 2 [GW9/I, 1]
 3. 「元型—とくにアニマ概念をめぐる」(91-118) D.1954b, 3 [GW9/I, 3]
 4. 「母親元型—その心理学との関わり」(119-168) D.1954b, 4 [GW9/I, 4]
- 1982c 『自我と無意識の関係』野田倬訳 京都 人文書院 pp.211 D.1928a (1933年版) [GW7, 2]
- 1982d 『『変化の象徴』より 蛾の歌1』野村美紀子訳 『ユリイカ』1982年11月号 [14-11] pp.238-247 青土社 D.1952e, Teil I, V [GW5, 4, Erst., V] (J.1982eに続く)
- 1982e 『『変化の象徴』より 蛾の歌(承前)』野村美紀子訳 『ユリイカ』1982年12月号 [14-12] pp.182-197 青土社 D.1952e, Teil I, V [GW5, 4, Erst., V] (J.1982dの続き)
- 1983a 「意識と無意識と個性化」鈴木俊司・森隆訳 『英語英文学論集』第14号 pp.31-48 鹿児島大学 CW9/I, 10 [GW9/I, 10]
- 1983b R・I・エヴァンスとの対話「C・G・ユング」犬田充訳 R・I・エヴァンス著『現代心理学入門(下)』pp.229-259 講談社学術文庫 R. I. Eva-

- ns, The Making of Psychology, Alfred A. Knopf, 1976 の訳
- 1983c 『統・元型論』林道義訳 東京 紀伊國屋書店 pp.242
1. 「母娘元型—デメテル＝コレー神話」(9-42) D.1951b,2 [GW9/1,7]
 2. 「童児元型—神話にみられる」(43-88) D.1951b,1 [GW9/1,6]
 3. 「トリックスター—元型—インディアン神話によせて」(89-115) D.1954a [GW9/1,9]
 4. 「精神元型—お伽噺に見られる」(117-183) D.1948a,2 (1951年版) [GW9/1,8]
- 1983d 「序文」秋山さと子訳 F・G・ウィックス著『子ども時代の内的世界』秋山さと子・國分久子訳 pp.1-9 東京 海鳴社 E.1927a (1955年版) [GW18,57]
- 1983e 『東洋的瞑想の心理学』(ユング心理学選書⑤) 湯浅泰雄・黒木幹夫訳 大阪 創元社 pp.321
1. 「チベットの死者の書の心理学」(61-95) ? [GW11,11]
 2. 「チベットの大きいなる解脱の書」(96-174) ? [GW11,10]
 3. 「禅の瞑想—鈴木大拙によせて—」(175-217) ? [GW11,13]
 4. 「浄土の瞑想—観無量寿經によせて—」(218-250) ? [GW11,14]
 5. 「インドの聖者」(251-269) ? [GW11,15]
 6. 「易と現代」(270-321) ? [GW11,16]
- 1984a 『自我と無意識』松代洋一・渡辺学訳 東京 思索社 pp.203 GW7,2 (1964年版)
- 1984b 「序文」林道義訳 E・ノイマン著『意識の起源史 上』 pp.15-16 紀伊國屋書店 G.1949f (1971年版) [GW18,54]
- 1985a 『変容の象徴』野村美紀子訳 東京 筑摩書房 pp.696 D.1952e[GW5]
1. 「第四版の序」(v-ix) D.1952e, Vorrede [GW5,1]
 2. 「第三版の序」(x) D.1952e, Vorrede [GW5,2]
 3. 「第二版の序」(xi-xii) D.1952e, Vorrede [GW5,3]
- 第1部
4. 「序章」(5-9) D.1952e, Teil I, I [GW5,4,Erst.,I]
 5. 「二種類の思考」(10-44) D.1952e, Teil I, II [GW5,4,Erst.,II]
 6. 「前史」(45-69) D.1952e, Teil I, III [GW5,4,Erst.,III]
 7. 「創造者讃歌」(70-130) D.1952e, Teil I, IV [GW5,4,Erst.,IV]
 8. 「蛾の歌」(131-191) D.1952e, Teil I, V [GW5,4,Erst.,V]
- 第2部
9. 「序章」(195-210) D.1952e, Teil II, I [GW5,4,Zweit.,I]
 10. 「リビドの概念」(211-223) D.1952e, Teil II, II [GW5,4,Zweit.,II]
 11. 「リビドの変容」(224-263) D.1952e, Teil II, III [GW5,4,Zweit.,III]
 12. 「英雄の誕生」(264-314) D.1952e, Teil II, IV [GW5,4,Zweit.,IV]
 13. 「母と再生の象徴」(315-414) D.1952e, Teil II, V [GW5,4,Zweit.,V]
 14. 「母から自由になるための戦い」(415-467) D.1952e, Teil II, VI

- [GW5,4,Zweit.,VI]
15. 「犠牲」(469-683) D.1952e,Teil II,VII [GW5,4,Zweit.,VII-VIII]
16. 「結び」(684-688) D.1952e,Teil II,VIII [GW5,4,Zweit.,IX]
- 1985b 「C・G・ユング博士の序」樋口和彦・武田憲道訳 M・ハーディング著『女性の神秘』pp.i-v 大阪 創元社 E.1955e(1971年版)[GW18,53]
- 1985c 『創造する無意識』松代洋一訳 東京 朝日出版社 pp.141
1. 「文学と心理学」(5-55) D.1950a,2 [GW15,7]
2. 「エディプス・コンプレックス」(57-73) GW4,9,6 (1979年版)
3. 「超越機能」(75-136) GW8,2 (1976年版)
- 1986a 「ユングによる序文」織田尚生・船井哲夫訳 E・ハーディング著『心的エネルギー 上』pp.14-16 京都 人文書院 E.1947e (1963年版) [GW18,42]
- 1986b 「『ユング自伝』英語版と日本語版の未訳部分」村本詔司 『花園大学研究紀要』第17号 pp.1-26 花園大学 D.1962a
- 1986c 『心理学的類型 I』(ユング・コレクション1) 佐藤正樹訳 京都 人文書院 pp.364 GW6 (1960年版) (J.1987eに続く)
1. 「第七版序言」(9-10) GW6,1
2. 「第八版序言」(11) GW6,1
3. 「序文」(14-15) GW6,2
4. 「序論」(16-21) GW6,3, Einleitung
5. 「古代および中世の精神史における類型問題」(22-87) GW6,3,1
6. 「類型問題に対するシラーの構想」(88-164) GW6,3,II
7. 「アポロンのなものとディオニュソスのなもの」(165-177) GW6,3,III
8. 「人物判断における類型問題」(178-200) GW6,3,IV
9. 「文芸における類型問題」(201-329) GW6,3,V
- 1986d 「クンダリニ・ヨガの心理学的注解」阿内正弘・白浜好明・湯浅泰雄訳『ブシケー』第5号 pp.19-43 思索社 (J.1987d, J.1988cに続く) Psychological Commentary on Kundalini Yoga, Spring 1975-76 の訳 (Seminaire 1932a)
- 1987a 『チューリヒ』(ドイツの世紀末 第5巻) 土肥美夫編 東京 国書刊行会
1. 「二種類の思考について—『リビド—の変容と象徴』より」春山清純訳 (213-221) D.1912a,1,2 [GW5,4,Erst.,II]
2. 「精神病理学における無意識の意味について」春山訳(222-231) GW3,4 (1979年版)
3. 「死者たちへの七つの教え」春山訳 (232-251) D.1962a (1971年版)
4. 「書簡より」春山訳(252-256) D.1972b, D.1973a
- 1987b 「夢心理学の一時的諸相(I)」鈴木俊司・森隆訳 『英語英文学論集』第18号 pp.1-10 鹿児島大学 E.1974a,3? [GW8,9] (J.1988bに続く)
- 1987c 『タイプ論』林道義訳 東京 みすず書房 pp.640 GW6 (1967年版)
1. 「まえがき」(1-2) GW6,2

2. 「第七版序文」(3-4) GW6,1
 3. 「第八版序文」(5) GW6,1
 4. 「序論」(9-14) GW6,3, Einleitung
 5. 「古代および中世の精神史におけるタイプ問題」(15-75) GW6,3,I
 6. 「タイプ問題に関するシラーの理念について」(76-143) GW6,3,II
 7. 「アポロ的なものとディオニュソス的なもの」(144-155) GW6,3,III
 8. 「人間観察におけるタイプ問題」(156-176) GW6,3,IV
 9. 「文学に見られるタイプ問題」(177-294) GW6,3,V
 10. 「精神病理学におけるタイプの問題」(295-310) GW6,3,VI
 11. 「美学におけるタイプごとの構えの問題」(311-321) GW6,3,VII
 12. 「現代哲学におけるタイプの問題」(322-344) GW6,3,VIII
 13. 「伝記におけるタイプの問題」(345-353) GW6,3,IX
 14. 「タイプの一般的説明」(354-439) GW6,3,X
 15. 「定義」(440-521) GW6,3,XI
 16. 「結語」(522-530) GW6,3, Schlußwort
 17. 「心理的諸タイプの問題について」(533-542) GW6,4
 18. 「心理的諸タイプ」(543-557) GW6,5
 19. 「心理学的タイプ論」(558-576) GW6,6
 20. 「心理学的タイプ論」(577-590) GW6,7
- 1987d 「クンダリニ・ヨガの心理学的注解(2)」阿内正弘・白浜好明・湯浅泰雄訳『プンケー』第6号 pp.45-71 思索社 (J.1986dの続き, J.1988cに続く) Psychological Commentary on Kundalini Yoga, Spring 1975-76 の訳 (Seminare 1932a)
- 1987e 『心理学的類型 II』(ユング・コレクション2) 高橋義孝・森川俊夫・佐藤正樹訳 京都 人文書院 pp.404 GW6 (1960年版) (J.1986cの続き)
1. 「精神病理学における類型の問題」(9-25) GW6,3,VI
 2. 「美学における類型的態度の問題」(26-36) GW6,3,VII
 3. 「現代哲学における類型問題」(37-61) GW6,3,VIII
 4. 「伝記における類型問題」(62-71) GW6,3,IX
 5. 「類型の一般的記述」(72-162) GW6,3,X
 6. 「定義」(163-247) GW6,3,XI
 7. 「結語」(248-257) GW6,3, Schlußwort
 8. 付録: 「心理学的類型の問題について」(261-271) GW6,4
 9. 「心理学的類型」(272-288) GW6,5
 10. 「心理学的類型学」(289-310) GW6,6
 11. 「心理学的類型学」(311-325) GW6,7
- 1987f W・マグァイナ編『フロイト／ユング 往復書簡集 下』平田武靖訳 東京 誠信書房 pp.366 D.1974a, E.1974b (J.1979cの続き)
- 1987g 「個人の運命における父親の意味」小川捷之訳 A・サミュエルズ編『父親』 pp.313-335 東京 紀伊國屋書店 CW4,14? The Father: Contemporary Jungian Perspectives, edited by A. Samuels, Free Association Books, 1985 の訳

- 1988a 『ヨブへの答え』林道義訳 東京 み
すず書房 pp.193 D.1952a [GW1
1,9]
- 1988b 「夢心理学の一時的諸相(Ⅱ)」鈴木俊
司・森隆訳 『英語英文学論集』第19
号 pp.21-31 鹿児島大学 E.1974
a,3? [GW8,9] (J.1987bの続き
未完)
- 1988c 「クンダリニ・ヨガの心理学的注解
(3)」湯浅泰雄訳 『プシケー』第
7号 pp.42-79 思索社 (J.1986d,
J.1987dの続き) Psychological
Commentary on Kundalini Yoga,
Spring 1975-76 の訳 (Seminare 19
32a)
- 1988d 「心理学的見地から見た良心」山中康
裕・季敏子訳 『プシケー』第7号
pp.80-98 思索社 GW10,16
- 1989a 『心理療法論』林道義訳 東京 みす
ず書房 pp.159
1. 「臨床的心理療法の基本」(3-32)
GW.16,2
 2. 「心理療法の目標」(33-62)
GW.16,5
 3. 「心理療法と世界観」(63-75)
GW.16,7
 4. 「心理学から見た良心」(76-106)
GW.10,16
 5. 「分析心理学における善と悪」(107
-131) GW.10,17
 6. 「ナチズムと心理療法」(132-146)
GW.10,26
- 1989b 『心理学と宗教』(ユング・コレク
ション3) 村本詔司訳 京都 人文書
院 pp.596
1. 「心理学と宗教」(9-93) E.1938a
[GW11,1]
 2. 「三位一体の教義にたいする心理学
的解釈の試み」(94-182) D.1948
a,4 [GW11,2]
 3. 「ミサにおける転換象徴」(183-28
1) D.1954b,6 [GW11,3]
 4. 「心理療法と教会の関係について」
(282-305) D.1932a [GW11,7]
 5. 「精神分析と教会」(306-313)
D.1928g [GW11,8]
 6. 「ヨブへの答え」(314-437) D.1
952a [GW11,9]
- 1989c 『オカルトの心理学』島津彬郎・松田
誠思編訳 東京 サイマル出版会
pp.269
1. 「『観念』の心理学的解釈—『オカル
ト現象』序文」島津訳(3-6) CW
18,5
 2. 「心霊的現象について」島津訳(7-3
3) CW18,4
 3. 「霊への信仰の心理学的基礎」島津
訳(34-60) CW8,11
 4. 「魂と死」島津訳(61-79) CW8,
17
 5. 「心理学と心霊論」島津訳(80-88)
CW18,6
 6. 「幽霊体験と心理学」島津訳(89-11
1) CW18,7, CW18,8
 7. 「超心理学の将来」島津訳(112-11
4) CW18,50
 8. 「錬金術と無意識の心理学—精神現
象としてのパラケルスス」松田訳(1
17-228) CW13,3
- 1989d 「心理療法の実践における諸原則」濱
野清志訳 『プシケー』第8号 pp.3
5-54 思索社 GW16,2

3. ドイツ語版ユング全集目次

以下は、ドイツ語版ユング全集 (Die Gesammelten Werke von C. G. Jung. Rascher, 1958-1970. Walter, 1971-1983.) の目次である。英語版ユング全集 (The Collected Works of C. G. Jung. Pantheon Books, 1953-1960. Bollingen Foundation, 1961-1967. Princeton University Press, 1967-1978. Routledge & Kegan Paul, 1953-1978.) も一部を除きほぼ同じ内容である。⁽¹⁾

各論文について、初めて出版された年と、全集に採用された版の出た年を示してある。また、先の「ユング著作邦訳文献一覧」に対応させて、邦訳文献の番号をも同時に記してある。(詳細については、下記の凡例を参照のこと)

<凡例>

GW1 各巻のタイトル (全集の出版年)

1. 論文名 [年号1] 年号2 (年号3) [邦訳文献番号]

① 年号1は、オリジナル原稿の書かれた年、元になった講演等の年などであり、それらが出版年と異なる場合、または、オリジナルと異なった言語で最初に出版された場合に記されている。オリジナル原稿の書かれた日付が不明の場合は年号の代りに?が置かれている。

オリジナルがドイツ語以外の場合は、年号の後に記号で示してある。E.は英語、Fr.はフランス語である。

② 年号2は、最初に出版された年を示す。なお、後にユング自身が改訂したことがわかっているものについては、/に続いてその改訂年を示してある。

ドイツ語以外で出版されたものについては、年号の後に記号でその言語を示してある。E.は英語、Fr.はフランス語、It.はイタリア語、Span.はスペイン語、Hebr.はヘブライ語、Ung.はハンガリー語を示す。

③ 年号3は、ドイツ語版全集で採用された版の出版年を示す。この部分が年号でなく記号になっているものは、出版物以外のものを使用していることを示している。Ms.は原稿を、Typ.はタイプ原稿を、Briefは手紙を、それぞれ表している。また、CWは、それが英語版全集から採られたことを示す。

なお、年号1と年号3のみがあり、年号2がないものは、それまでに出版はされておらず、全集で初めて出版されたことを示している。

④ 邦訳文献番号は、「ユング著作邦訳文献一覧」中の番号に対応しており、日本語を示すJを付けて表記してある。例えばJ.1982a,1は、邦訳文献1982aの第1章を示す。

なお、ここに挙げた邦訳文献は、必ずしもこれらの邦訳が原書としてドイツ語版全集を使用しているという意味ではなく、邦訳文献の内容が全集中のどの位置に属しているかを示したものである。従って、「ユング著作邦訳文献一覧」の中にある邦訳文献のうち、全集の中に対応する論文があるものについては、全てこの「ドイツ語版ユング全集目次」中に引用されていることになる。

GW1 PSYCHIATRISCHE STUDIEN (1966)

1. Zur Psychologie und Pathologie sogenannter okkultur Phänomene. 1902 (1902)[J.1982a,1]
2. Über hysterisches Verlesen. 1904 (1904)
3. Kryptomnesie. 1905 (1905) [J.1982a,2]
4. Über manische Verstimmung. 1903 (1903)
5. Ein Fall von hysterischem Stupor bei einer Untersuchungsgefangenen. 1902 (1902)
6. Über Simulation von Geistesstörung. 1903 (1903)
7. Ärztliches Gutachten über einen Fall -

von Simulation geistiger Störung. 1904 (1904)

8. Obergutachten über zwei widersprechende psychiatrische Gutachten. 1906 (1906)
9. Zur psychologischen Tatbestandsdiagnostik. 1905 (1905)

GW2 EXPERIMENTELLE UNTERSUCHUNGEN (1979)

Studien zur Wortassoziation

1. Experimentelle Untersuchungen über Assoziationen Gesunder. 1904–1905 (1906)
2. Analyse der Assoziationen eines Epileptikers. 1905 (1906)
3. Über das Verhalten der Reaktionszeit beim Assoziationsexperimente. 1905 (1906)
4. Experimentelle Beobachtungen über das Erinnerungsvermögen. 1905 (1905)
5. Psychoanalyse und Assoziationsexperiment. 1906 (1906)
6. Die psychologische Diagnose des Tatbestandes. 1905 (1941)
7. Assoziation, Traum und hysterisches Symptom. 1906 (1909)
8. Die psychopathologische Bedeutung des Assoziationsexperimentes. 1906 (1906)
9. Über die Reproduktionsstörungen beim Assoziationsexperiment. 1907 (1909)
10. Die Assoziationsmethode. [1909]1910(E.) (Ms.) [J.1926a,2, J.1927a,2]
11. Die familiäre Konstellation. [1909]1910(E.) (Ms.) [J.1926a,3, J.1927a,3]

Psychophysische Untersuchungen

12. Über die psychophysischen Begleiterscheinungen im Assoziationsexperiment. 1907(E.) (CW)
13. Psychophysische Untersuchungen mit dem Galvanometer und dem Pneumographen bei Normalen und Geisteskranken. 1907(E.) (CW)

14. Weitere Untersuchungen über das galvanische Phänomen und die Respiration bei Normalen und Geisteskranken. 1907–1908(E.) (CW)

Appendix:

15. Statistisches von der Rekrutenaushebung. 1906 (1906)
16. Neu Aspekte der Kriminalpsychologie. [?]1908(It.) (CW)
17. Die an der Psychiatrischen Klinik in Zürich gebräuchlichen psychologischen Untersuchungsmethoden. 1910 (1910)
18. Ein kurzer Überblick über die Komplexlehre. [1911]1913 (Ms.)
19. Zur psychologischen Tatbestandsdiagnostik: Das Tatbestandsexperiment im Schwurgerichtsprozeß Näf. 1937 (1937)

GW3 PSYCHOGENESE DER GEISTESKRANKHEITEN (1968)

1. Über die Psychologie der Dementia praecox: Ein Versuch. 1907 (1907)[J.1979e,3]
2. Der Inhalt der Psychose. 1908/1914 (1914)[J.1918a, J.1926a,10, J.1927a,10, J.1979e,1]
(Eingeschlossen Nachtrag: Über das psychologische Verständnis pathologischer Vorgänge. 1914 [J.1979e,2])
3. Kritik über E.Bleuler: Zur Theorie des schizophrener Negativismus. 1911 (1911)
4. Über die Bedeutung des Unbewußten in der Psychopathologie. 1914(E.)(1914(E.)) [J.1926a,8, J.1927a,8, J.1987a,2]
5. Über das Problem der Psychogenese bei Geisteskrankheiten. 1919(E.)(1919(E.))
6. Geisteskrankheit und Seele. 1928 (1928)
7. Über die Psychogenese der Schizophrenie. 1939(E.) (1939(E.))
8. Neuere Betrachtungen zur Schizophrenie. [1956]1957(E.) (1959)
9. Die Schizophrenie. 1958 (1958)

GW4 FREUD UND DIE PSYCHOANALYSE (1969)

1. Die Hysterielehre Freuds. Eine Erwiderung auf die Aschaffenburgsche Kritik. 1906 (1906)
2. Die Freudsche Hysterietheorie. 1908 (1908)
3. Die Traumanalyse. 1909(Fr.) (1909(Fr.))
4. Ein Beitrag zur Psychologie des Gerüchtes. 1910–1911 (1910)
5. Ein Beitrag zur Kenntnis des Zahlentraumes. 1910–1911 (1911)
6. Morton Prince, M.D.: *The Mechanism and Interpretation of Dreams*. Eine kritische Besprechung. 1911 (1911)
7. Zur Kritik über Psychoanalyse. 1910 (1910)
8. Zur Psychoanalyse. 1912 (1912)
9. Versuch einer Darstellung der psychoanalytischen Theorie. 1913 (1955)[J.1978d, J.1985c,2]
10. Allgemeine Aspekte der Psychoanalyse. 1913 (Ms.) [J.1926a,6, J.1927a,6]
11. Über Psychoanalyse. [1912(E.)]1916(E.) (1916(E.))
12. Psychotherapeutische Zeitfragen. Ein Briefwechsel zwischen C.G.Jung und R.Loÿ. 1914 (1914) [J.1926a,7, J.1927a,7]
13. Vorreden zu den *Collected Paper on Analytical Psychology*. 1916(1916(E.))&1917(E.) [J.1926a,1, J.1927a,1]
14. Die Bedeutung des Vaters für das Schicksal des Einzelnen. 1909 (1949)[J.1926a,5, J.1927a,5, J.1975b, J.1987g]
15. Einführung zu W.M.Kranefeldt: *Die Psychoanalyse*. 1930 (1930)
16. Der Gegensatz Freud und Jung. 1929 (1931) [J.1977b,6]

GW5 SYMBOLE DER WANDLUNG (1973)

ANALYSE DES VORSPIELS ZU EINER SCHIZOPHRENIE

1. Vorrede zur vierten Auflage. 1950
2. Vorrede zur dritten Auflage. 1937
3. Vorrede zur zweiten Auflage. 1924
4. Symbole der Wandlung.[Wandlungen und Symbole der Libido.] 1911–1912/1952 (1952) [J.1931a, J.1985a]

Erster Teil:

- I. Einleitung.
- II. Über die zwei Arten des Denkens. [J.1987a,1]
- III. Vorgeschichte.
- IV. Der Schöpferhymnus.
- V. Das Lied von der Motte. [J.1982-d&J.1982e]

Zweiter Teil:

- I. Einleitung.
- II. Über den Begriff der Libido.
- III. Die Wandlung der Libido.
- IV. Die Entstehung des Heros.
- V. Symbole der Mutter und der Wiedergeburt.
- VI. Der Kampf um die Befreiung von der Mutter.
- VII. Die Zweifache Mutter.
- VIII. Das Opfer.
- X. Schlußwort.

Anhang: Übersetzungen.

GW6 PSYCHOLOGISCHE TYPEN (1960)

1. Vorworte zur 7. und 8. Auflage.
2. Vorrede.
3. Psychologische Typen. 1921/1960 (1921) [J.1986c&J.1987e, J.1987c]
Einleitung. [J.1974c,1]
 - I. Das Typenproblem in der antiken und mittelalterlichen Geistesgeschichte.
 - II. Über Schillers Ideen zum Typenproblem.
 - III. Das Apollinische und das Dionysische.
 - IV. Das Typenproblem in der Mensche-

nkenntnis. [J.1974b, J.1974c,2]

- V. Das Typenproblem in der Dichtkunst.
- VI. Das Typenproblem in der Psychopathologie.
- VII. Das Problem der typischen Einstellungen in der Ästhetik.
- VIII. Das Typenproblem in der modernen Philosophie.
- K. Das Typenproblem in der Biographik.
- X. Allgemeine Beschreibung der Typen.[J.1957a,1, J.1974c,3]
- XI. Definitionen. [J.1957a,2] Schlußwort. [J.1957a,3, J.1974c,4]

Anhang:

- 4. Zur Frage der psychologischen Typen. [1913]1913(Fr.) (Ms.)
- 5. Psychologische Typen. [1923]1925 (1925)
- 6. Psychologische Typologie. [1928]1931 (1931)
- 7. Psychologische Typologie. 1936 (1936)

GW7 ZWEI SCHRIFTEN ÜBER ANALYTISCHE PSYCHOLOGIE (1964)

- 1. Über die Psychologie des Unbewußten. 1917/1926/1943 (1943)[J.1956c, J.1977c]
- 2. Die Beziehungen zwischen dem Ich und dem Unbewußten. 1928/1935 (1935)[J.1982c, J.1984a]

Anhang:

- 3. Neue Bahnen der Psychologie. 1912 (1912)
- 4. Die Struktur des Unbewußten. [1916]1916(Fr.) (Ms.)

GW8 DIE DYNAMIK DES UNBEWUSSTEN (1967)

- 1. Über die Energetik der Seele. 1928 (1948)
- 2. Die transzendente Funktion. [1916]1957 (1958) [J.1978a, J.1985c,3]
- 3. Allgemeines zur Komplextheorie. 1934

(1948)

- 4. Die Bedeutung von Konstitution und Vererbung für die Psychologie. 1929 (1929)
- 5. Psychologische Determinanten des menschlichen Verhaltens. [1936(E.)]1937(E.) (Ms.)
- 6. Instinkt und Unbewußtes. [1919]1919(E.) (1948) [J.1977b,2]
- 7. Die Struktur der Seele. 1927 (1931) [J.1955a,4]
- 8. Theoretische Überlegungen zum Wesen des Psychischen. 1947 (1954)
- 9. Allgemeine Gesichtspunkte zur Psychologie des Traumes. 1916(E.) (1948)[J.1926a,9, J.1927a,9, J.1980b,5, J.1987b&J.1988b]
- 10. Vom Wesen der Träume. 1945 (1948) [J.1977b,1]
- 11. Die psychologischen Grundlagen des Geisterglaubens. [1919]1920(E.) (1948)[J.1989c,3]
- 12. Geist und Leben. 1926 (1931) [J.1955a,8]
- 13. Das Grundproblem der gegenwärtigen Psychologie. 1931 (1934)[J.1955b,2, J.1978c,1]
- 14. Analytische Psychologie und Weltanschauung. [1927]1928(E.) (1931)
- 15. Wirklichkeit und Überwirklichkeit. 1933 (1932)
- 16. Die Lebenswende. 1930 (1931) [J.1979b,3]
- 17. Seele und Tod. 1934 (1934) [J.1955b,9, J.1989c,4]
- 18. Synchronizität als ein Prinzip akausaler Zusammenhänge. 1952 (1952)[J.1976b]
- 19. Über Synchronizität. [1951]1952 (1952) [J.1976c]

GW9/I DIE ARCHETYPEN UND DAS KOLLEKTIVE UNBEWUSSTE (1976)

- 1. Über die Archetypen des kollektiven Unbewußten. 1935 (1954)[J.1981c,4,

- J.1982b,2]
2. Der Begriff des kollektiven Unbewußten. 1936(E.) (CW)[J.1981c,3, J.1982b,1]
 3. Über den Archetypus mit besonderer Berücksichtigung des Animabegriffes. 1936 (1954) [J.1981c,5, J.1982b,3]
 4. Die psychologischen Aspekte des Mutterarchetypus. 1939 (1954)[J.1977b,3, J.1981c,6, J.1982b,4]
 5. Über Wiedergeburt. 1940 (1950) [J.1981c,2]
 6. Zur Psychologie des Kindarchetypus. 1940 (1951) [J.1975a,1, J.1983c,2]
 7. Zum psychologischen Aspekt der Korefigur. 1941 (1951)[J.1975a,2, J.1983c,1]
 8. Zur Phänomenologie des Geistes im Märchen. 1946 (1948)[J.1956a,4, J.1978c,3, J.1981c,1, J.1983c,4]
 9. Zur Psychologie der Tricksterfigur. 1954 (1954) [J.1974e, J.1983c,3]
 10. Bewußtsein, Unbewußtes und Individuation. 1939(E.) (1939)[J.1980b,6, J.1983a]
 11. Zur Empirie des Individuationsprozesses. 1934 (1950) [J.1980b,7]
 12. Über Mandalasymbolik. 1950 (1950) [J.1976f&J.1977a]
 13. Mandalas[Appendix]. 1955 (1955) [J.1980b,8]

GW9/II AION; BEITRÄGE ZUR SYMBOLIK DES SELBST (1976) 1951 (1951)

Vorrede. 1950

- I. Das Ich. [J.1980b,1]
- II. Der Schatten. [J.1980b,2]
- III. Die Syzygie: Anima und Animus. [J.1980b,3]
- IV. Das Selbst. [J.1980b,4]
- V. Christus, ein Symbol des Selbst.
- VI. Das Zeichen der Fische.
- VII. Die Prophezeiung des Nostradamus.
- VIII. Über die geschichtliche Bedeutung des Fisches.
- IX. Die Ambivalenz des Fischsymbols.

X. Der Fisch in der Alchemie.

- XI. Die alchemistische Deutung des Fisches.
- XII. Allgemeines zur Psychologie der christlich—alchemistischen Symbolik.
- XIII. Gnostische Symbole des Selbst.
- XIV. Die Struktur und Dynamik des Selbst.
- XV. Schlußwort.

GW10 ZIVILISATION IM ÜBERGANG (1974)

1. Über das Unbewußte. 1918 (1918)
2. Seele und Erde. 1927 (1931) [J.1955a,5]
3. Der archaische Mensch. 1931 (1931) [J.1955a,6]
4. Das Seelenproblem des modernen Menschen. 1928 (1931) [J.1955a,9]
5. Das Liebesproblem des Studenten. [1922]1928(E.) (1971)
6. Die Frau in Europa. 1927 (1971) [J.1956b,3]
7. Die Bedeutung der Psychologie für die Gegenwart. 1933 (1934) [J.1955b,3]
8. Zur gegenwärtigen Lage der Psychotherapie. 1934 (1934)
9. Vorwort zu *Aufsätze zur Zeitgeschichte*. 1946 (1946)[J.1977b,7, J.1978c,5, J.1979d,1]
10. Wotan. 1936 (1946) [J.1977b,8, J.1979d,2]
11. Nach der Katastrophe. 1945 (1946) [J.1979d,3]
12. Der Kampf mit dem Schatten. 1946(E.)(CW) [J.1979b,1, J.1979d,5]
13. Nachwort zu *Aufsätze zur Zeitgeschichte*. 1946 (1946)[J.1977b,7, J.1978c,5, J.1979d,4]
14. Gegenwart und Zukunft. 1957 (1957) [J.1979d,9]
15. Ein moderner Mythos: Von Dingen, die am Himmel gesehen werden. 1958 (1958&1959(E.)) [J.1976e, J.1976h]

16. Das Gewissen in psychologischer Sicht. 1958 (1958) [J.1988d, J.1989a,4]
 17. Gut und Böse in der analytischen Psychologie. 1959 (GW11,19) [J.1989a,5]
 18. Vorrede zu: Toni Wolff, *Studien zu C.G.Jungs Psychologie*. 1959 (1959)
 19. Die Bedeutung der schweizerischen Linie im Spektrum Europas. 1928 (1928)
 20. Der Aufgang einer neuen Welt. Eine Besprechung von: H.Keyserling *Amerika. Der Aufgang einer neuen Welt*. 1930 (1930)
 21. Ein neues Buch von Keyserling *La Révolution mondiale et la responsabilité de l'esprit*. 1934 (1934)
 22. Komplikationen der amerikanischen Psychologie. 1930(E.) (CW)
 23. Die träumende Welt Indiens. 1939(E.) (1939(E.)) [J.1979d,6]
 24. Was Indien uns lehren kann. 1939(E.) (1939(E.)) [J.1979d,7]
- Verschiedenes:*
25. Geleitwort. (*Zentralblatt* VI,1933) 1933 (1933)
 26. Zeitgenössisches. (*Neue Zürcher Zeitung* CLV,1934) 1934 (1934) [J.1989a,6]
 27. Rundschreiben. (*Zentralblatt* VII,1934) 1934 (1934)
 28. Geleitwort. (*Zentralblatt* VIII,1935) 1935 (1935)
 29. Vorbemerkung des Herausgebers. (*Zentralblatt* VIII,1935) 1935 (1935)
 30. Begrüßungsansprache [des Präsidenten] zum Achten Allgemeinen Ärztlichen Kongreß in Bad Nauheim (1935). 1935 (Ms.)
 31. Votum. (*Schweizerische Ärztezeitung* XVI,1935) 1935 (1935)
 32. Begrüßungsansprache [des Präsidenten] zum Neunten Internationalen Ärztlichen Kongreß für Psychotherapie in Kopenhagen (1937). 1937 (Ms.)
 33. Begrüßungsansprache [des Präsidenten] zum Zehnten Internationalen Ärztlichen Kongreß für Psychotherapie in Oxford (1938). 1938 (CW)
- GW11 ZUR PSYCHOLOGIE WESTLICHER UND ÖSTLICHER RELIGION (1963)**
- Westliche Religion*
1. Psychologie und Religion. 1938(E.) (1940) [J.1956b,1, J.1989b,1]
 2. Versuch einer psychologischen Deutung des Trinitätsdogmas. 1942 (1948)[J.1989b,2]
 3. Das Wandlungssymbol in der Messe. 1942 (1954) [J.1989b,3]
 4. Vorwort zu V.White: *Gott und das Unbewußte*. 1952(E.) (1957)
 5. Vorwort zu Z.Werblowsky: *Lucifer and Prometheus*. 1952(E.) (Ms.)
 6. Bruder Klaus. 1933 (1933)
 7. Über die Beziehung der Psychotherapie zur Seelsorge. 1932 (1932)[J.1989b,4]
 8. Psychoanalyse und Seelsorge. 1928 (1928) [J.1989b,5]
 9. Antwort auf Hiob. 1952 (1961) [J.1981a, J.1988a, J.1989b,6]
- Östliche Religion*
10. Psychologischer Kommentar zu: *Das tibetische Buch der großen Befreiung*. 1939(E.) (1955) [J.1973e, J.1983e,2]
 11. Psychologischer Kommentar zum Bardo Thödol(Das tibetanische Totenbuch). 1935 (1935) [J.1983e,1]
 12. Yoga und der Westen. 1936 (Ms.) [J.1973c, J.1979d,8]
 13. Geleitwort zu D.T.Suzuki: *Die große Befreiung*. 1939 (1939)[J.1960a, J.1969a, J.1983e,3]
 14. Zur Psychologie östlicher Meditation. 1943 (1948) [J.1956b,2, J.1983e,4]
 15. Über den indischen Heiligen. Einführung zu H.Zimmer: *Der Weg zum Selbst*. 1944

(1944) [J.1983e,5]

16. Vorwort zum I Ging. 1950 (Ms.) [J.1974-d, J.1983e,6]

Anhang(nicht in CW11):

17. Antwort an Martin Buber. 1952 (1952) [J.1967a]
18. Zu *Psychologie und Religion*. (1940)
19. Gut und Böse in der analytischen Psychologie. (1959)
20. Zum Problem des Christussymbols. [1953(E.)] (1975(E.))
21. Zu *Antwort auf Hiob*. [1951] (1972)
22. Zu *Antwort auf Hiob*. [1952] (1972)
23. Klappentext zur ersten Auflage von *Antwort auf Hiob*. [1952] (GW18,95)
24. Aus einem Brief an einen protestantischen Theologen. [1943] (1972)
25. Brief an *The Listener*. Januar 1960.- [1960] (1960(E.))

26. Zu *Die Reden Gotamo Buddhos*. (1956)
GW12 PSYCHOLOGIE UND ALCHEMIE (1972) [J.1976d&J.1976g]

1. Vorwort. 1943
2. Vorwort zur zweiten Auflage. 1951
3. Psychologie und Alchemie. 1944 (1952)
 - I. Einleitung in die religionspsychologische Problematik der Alchemie.
 - II. Traumsymbole des Individuationsprozesses. 1936
 - III. Die Erlösungsvorstellungen in der Alchemie. 1937 [J.1978c,4]Epilog.

GW13 STUDIEN ÜBER ALCHEMISTISCHE VORSTELLUNGEN (1978)

1. Kommentar zu *Das Geheimnis der Goldenen Blüte*. 1929 (1957)[J.1977b,4, J.1980a,1&3-4]
2. Die Visionen des Zosimos. [1942]1943 (1954)
3. Paracelsus als geistige Erscheinung. [1937]1938 (1942) [J.1989c,8]
4. Der Geist Mercurius. 1942 (1948)

5. Der philosophische Baum. 1945 (1954)

GW14 MYSTERIUM CONIUNCTIONIS (1968)

UNTERSUCHUNGEN ÜBER DIE TRENNUNG UND ZUSAMMENSETZUNG DER SEELISCHEN GEGENSÄTZE IN DER ALCHEMIE 1955-1956 (1955&1956)

/ I Vorwort

- I. Die Komponenten der Coniunctio
- II. Die Paradoxa
- III. Die Personifikationen der Gegensätze

/ II

- IV. Rex und Regina
 - V. Adam und Eva
 - VI. Die Konjunktion
- Nachwort

/ III *Ergänzungsband:*

Aurora Consurgens. (1973)

GW15 ÜBER DAS PHÄNOMEN DES GEISTES IN KUNST UND WISSENSCHAFT (1971)

1. Paracelsus. 1929 (1934/1952)
2. Paracelsus als Arzt. 1941 (1942)
3. Sigmund Freud als kulturhistorische Erscheinung. 1932 (1934) [J.1955b,5]
4. Sigmund Freud. 1939 (1939) [J.1977b,5]
5. Zum Gedächtnis Richard Wilhelms. 1930 (1957) [J.1980a,2]
6. Über die Beziehungen der analytischen Psychologie zum dichterischen Kunstwerk. 1922 (1931) [J.1955a,3]
7. Psychologie und Dichtung. 1930 (1950,Ms.)[J.1975c, J.1977d, J.1979b,2, J.1985c,1]
8. <Ulysses> Ein Monolog. 1932 (1934,C-W) [J.1955b,6]
9. Picasso. 1932 (1934) [J.1955b,7]

GW16 PRAXIS DER PSYCHOTHERAPIE (1958)

BEITRÄGE ZUM PROBLEM DER PSYCHOTHERAPIE UND ZUR PSYCHOLOGIE DER ÜBERTRAGUNG

1. Geleitwort des Autors. 1958

Erster Teil: Allgemeine Probleme der Psychotherapie.

2. Grundsätzliches zur praktischen Psychotherapie. 1935 (1935)[J.1989a,1, J.1989d]
3. Was ist Psychotherapie? 1935 (1935)
4. Einige Aspekte der modernen Psychotherapie. [1929(E.)]1939(E.) (CW)
5. Ziele der Psychotherapie. 1929 (1931) [J.1989a,2]
6. Die Probleme der modernen Psychotherapie. 1929 (1931) [J.1955a,2]
7. Psychotherapie und Weltanschauung. [1942]1943 (1946) [J.1989a,3]
8. Medizin und Psychotherapie. 1945 (1945)
9. Die Psychotherapie in der Gegenwart. [1941]1945 (1946)
10. Grundfragen der Psychotherapie. 1951 (1951)

Zweiter Teil: Spezielle Probleme der Psychotherapie.

11. Der therapeutische Wert des Abreagierens. 1921(E.)(1921(E.))
12. Die praktische Verwendbarkeit der Traumanalyse. 1931 (1934)[J.1955b,4, J.1978c,2]
13. Die Psychologie der Übertragung. 1946 (1946)

GW17 UBER DIE ENTWICKLUNG DER PERSÖNLICHKEIT (1972)

1. Über Konflikte der kindlichen Seele. [1909]1910 (1946)[J.1926a,4, J.1927a,4, J.1956a,2]
2. Einführung zu Frances G.Wickes *Analyse der Kindesseele*. 1927(E.)/1931 (1931)
3. Die Bedeutung der Analytischen Psychologie für die Erziehung. [1923]1928(E.) (1971)
4. Analytische Psychologie und Erziehung. [1924(E.)]1926 (1946) [J.1956a,1]

5. Der Begabte. [1942]1943 (1946) [J.1956a,3]

6. Die Bedeutung des Unbewußten für die individuelle Erziehung. [1925]1928(E.)(1971)
7. Vom Werden der Persönlichkeit. [1932]1934 (1934) [J.1955b,8]
8. Die Ehe als psychologische Beziehung. 1925 (1931) [J.1955a,7]

GW18 DAS SYMBOLISCHE LEBEN (1981)

VERSCHIEDENE SCHRIFTEN

/ I

1. Über Grundlagen der Analytischen Psychologie. Die Tavistock Lectures. [1935(E.)]1968(E.) (1969) [J.1976a]
2. Symbole und Traumdeutung. [1961(E.)]1964(E.) (1968) [J.1972b, J.1975d]
3. Das Symbolische Leben. [1939(E.)]1954(E.) (1954(E.))

Über Okkultismus(Ergänzungen zu GW1):

4. Über spiritistische Erscheinungen. 1905 (1905) [J.1989c,2]
5. Vorrede zu Jung: *Phénomènes occultes*. [1938]1939(Fr.) (Ms.) [J.1989c,1]
6. Psychologie und Spiritismus. 1948 (1948) [J.1989c,5]
7. Vorrede und Beitrag zu Moser: *Spuk: Irrglaube oder Wahrglaube?* 1950 (1950) [J.1989c,6]
8. Vorwort zu Jaffé: *Geistererscheinungen und Vorzeichen. Eine psychologische Deutung*. [1957]1958 (1958) [J.1989c,6]

Die Psychogenese der Geisteskrankheiten(Ergänzungen zu GW3):

9. Der gegenwärtige Stand der angewandten Psychologie in den einzelnen Kulturländern. 1907–1908 (1908)
10. Über Dementia praecox. [1908]1910 (1910)
11. Besprechung von Sadger: *Konrad Ferdinand Meyer*. 1909 (1909)

12. Besprechung von Waldstein: *Das unbewußte Ich und sein Verhältnis zur Gesundheit und Erziehung*. 1909 (1909)
 13. Blick in die Verbrecherseele. [?]1932(E.) (1933)
 14. Zur Frage der ärztlichen Intervention. 1950—1951 (1950)
 15. Vorrede zu Custance: *Wisdom, Madness and Folly*. [1951]1952(E.) (Ms.)
 16. Vorwort zu Perry: *The Self in Psychotic Process*. 1953(E.) (1953(E.))
 17. Geleitwort zu Schmaltz: *Komplexe Psychologie und körperliches Symptom*. 1955 (1955)
- Freud und die Psychoanalyse(Ergänzungen zu GW4):*
18. Sigmund Freud: Über den Traum. [1900]1901 (Ms.)
 19. Besprechung von Hellpach: Grundlinien einer Psychologie der Hysterie. 1905 (1905)
 20. Besprechungen von psychiatrischer Literatur. 1906—1910 (1906—1910)
 21. Über die Bedeutung der Lehre Freuds für Neurologie und Psychiatrie. [1907]1908 (1908)
 22. Wilhelm Stekel: *Nervöse Angstzustände und ihre Behandlung*. 1908 (1908)
 23. Vorbemerkung der Redaktion zum *Jahrbuch*. 1909 (1909)
 24. Randbemerkungen zu Wittels: *Die sexuelle Not*. 1910 (1910)
 25. Besprechung von Wulffen: *Der Sexualverbrecher*. 1910 (1910)
 26. Referate über psychologische Arbeiten schweizerischer Autoren (bis Ende 1909). 1910 (1910)
 27. Besprechung von Hitschmann: *Freuds Neurosenlehre*. 1911 (1911)
 28. Jahresbericht des Präsidenten der Internationalen Psychoanalytischen Vereinigung über das Vereinsjahr 1910/11. 1911 (1911)
 29. Zwei Briefe zur Psychoanalyse. 1912 (1912)
 30. Über die psychoanalytische Behandlung nervöser Leiden. 1912 (1912)
 31. Eine Bemerkung zur Tauskschen Kritik der Nelkenschen Arbeit. 1913 (1913)
 32. Antworten auf Fragen über Freud. [1953(E.)]1968(E.) (1968(E.))
- / II
- Über Symbolik(Ergänzungen zu GW5):*
33. Über Ambivalenz. [1910]1911 (1911)
 34. Beiträge zur Symbolik. 1911 (1911)
- Zwei Schriften über analytische Psychologie(Ergänzungen zu GW7):*
35. Anpassung, Individuation und Kollektivität. [1916] (Typ.)
 36. Vorwort zur ungarischen Ausgabe [Jung] *Über die Psychologie des Unbewußten*. [1944]1948(Ung.) (Ms.)
- Die Dynamik des Unbewußten(Ergänzungen zu GW8):*
37. Vorworte zu [Jung] *Über psychische Energetik und das Wesen der Träume*. [1928,1947]1948 (1948)
 38. Über Halluzination. 1933 (1933)
 39. Geleitwort zu Schleich: *Die Wunder der Seele*. 1934 (1934)
 40. Geleitwort zu Jacobi: *Die Psychologie von C.G.Jung*. [1939]1940 (1940)[J.1973-b]
 41. Vorwort zur spanischen Ausgabe von 40. [?]1947(Span.) (Typ.)
 42. Vorwort zu Harding: *Psychic Energy*. [1947]1947(E.) (Ms.) [J.1986a]
 43. Rede anlässlich der Gründungssitzung des C.G.Jung-Institutes Zürich, am 24. April 1948. (Typ.)
 44. Lexikonartikel <Tiefenpsychologie>. [1948]1951 (1951)
 45. Geleitwort zu den <Studien aus dem C.G.Jung-Institutes Zürich>. [1948]1949

- (1949)
46. Vorwort zu Frieda Fordham: *Introduction to Jung's Psychology*. [1952(E.)]1953(E.) (1953(E.)) [J.1974a]
 47. Vorwort zu Michael Fordham: *New Developments in Analytical Psychology*. [1957]1957(E.) (Ms.)
 48. Ein astrologisches Experiment. 1958 (1-958)
 49. Briefe über Synchronizität. [1950–1955] (Brief)
 50. Die Zukunft der Parapsychologie. [1960-(E.)] 1963(E.) (1963(E.)) [J.1989c,7]
 - Die Archetypen und das kollektive Unbewußte*(Ergänzungen zu GW9):
 51. Die Hypothese des kollektiven Unbewußten. 1932 (1932)
 52. Geleitwort zu Adler: *Entdeckung der Seele*. [1933]1934 (1934) [J.1979a]
 53. Geleitwort zu Harding: *Frauen—Mysterien*. [1948]1949 (Typ.) [J.1985b]
 54. Vorwort zu Neumann: *Ursprungsgeschichte des Bewußtseins*. 1949 (1949)[J.1984b]
 55. Vorwort zu Adler: *Zur analytischen Psychologie*. [1949]1952 (1952)
 56. Vorwort zu Jung: *Gestaltungen des Unbewußten*. [1949]1950 (1950)
 57. Vorwort zu Wickes: *Von der inneren Welt des Menschen*. 1953 (1953) [J.1983-d]
 58. Vorrede zu Jung: *Von den Wurzeln des Bewußtseins*. [1953]1954 (1954)
 59. Vorwort zu van Helsdingen: *Beelden uit het onwebuste*. [1954]1957 (1957)
 60. Vorwort zu Jacobi: *Komplex, Archetypus, Symbol in der Psychologie C.G.J-ungs*. [1956]1957 (1957)
 61. Vorwort zu Bertine: *Menschliche Beziehungen*. [1956]1957 (1957)
 62. Vorwort zu de Laszlo: *Psyche and Symbol*. [1957(E.)]1958(E.) (1958(E.))
 63. Vorwort zu Brunner: *Die Anima als Schicksalsproblem des Mannes*. [1959]1-963 (1963)
 - Zivilisation im Übergang*(Ergänzungen zu GW10):
 64. Bericht über Amerika. 1910 (1910)
 65. Zur Psychologie des Negers. [1912]1913 (1913)
 66. Radiogespräch München. [1930] (Ms.)
 67. Vorworte zu Jung: *Seelenprobleme der Gegenwart*. [1930,1932,1959]1931,1959(It.) (1931,Ms.) [J.1955a,1]
 68. Vorwort zu Aldrich: *The Primitive Mind and Modern Civilization*. [?]1931(E.) (1931(E.))
 69. Pressemitteilung beim Besuch der Vereinigten Staaten. [1936(E.)] (Ms.(E.))
 70. Psychologie und nationale Probleme. [1936] (Ms.)
 71. Rückkehr zum einfachen Leben. 1941 (1941)
 72. Epilog zu Jung: *L'Homme à la découverte de son âme*. [?]1944(Fr.) (Ms.)
 73. Randglossen zur Zeitgeschichte. [1945] (Typ.)
 74. Antworten an Mishmar über Adolf Hitler. [1945]1974(Hebr.) (Brief)
 75. Techniken für einen dem Weltfrieden dienlichen Einstellungswandel. (Memorandum für die UNESCO). [1948(E.)] (Typ.(E.))
 76. Die Wirkung der Technik auf das seelisch—geistige Leben. 1949 (1949)
 77. Geleitwort zu Neumann: *Depth Psychology and a New Ethic*. [1949]1969(E.)(Typ.)
 78. Vorwort zu Baynes: *Analytical Psychology and the English Mind*. 1950(E.)(Typ.)
 79. Lebensregeln. 1954 (1954)
 80. Über <Flying Saucers>. 1954 (1954)
 81. An die United Press International. 1958

- (1958)
82. Brief an Keyhoe. [1958(E.)]1959(E.)(1959-
(E.))
83. Die menschliche Natur ist idealistischen
Ratschlägen nicht leicht zugänglich.
1955(E.) (1955(E.))
84. Das geistige Europa und die ungarische
Revolution. 1956,1957 (1956,1957)
85. Über Psychodiagnose. 1958 (1958)
86. Wenn Christus heute auf Erden wande-
lte. 1958(E.) (1958(E.))
87. Vorwort zu *Hugh Crichton-Miller*
1877-1959. [1960(E.)]1961(E.) (1961(E.))
Psychologie und Religion(Ergänzungen zu
GW11):
88. Warum adoptiere ich nicht die <kathol-
ische Wahrheit>? [1944] (Brief)
89. Lexikonartikel <Dämonie>. [1945]1949
(1949)
90. Vorwort zu Jung: *Symbolik des Geistes*.
[1947]1948 (1948)
91. Vorwort zu Quispel: *Tragic Christianit-*
y. [1949] (Ms.)
92. Geleitwort zu Abegg: *Ostasien denkt*
anders. [1949]1950 (1950)
93. Vorrede zu Allenby: *A Psychological*
Study of the Origins of Monotheism.
[1950] (Ms.)
94. Das Fastenwunder des Bruder Klaus.
1950-1951 (1951)
95. Zu Jung: *Antwort auf Hiob*. 1952 (19-
52)
96. Religion und Psychologie. Eine Antwort
auf Martin Buber. 1952 (1952)[J.1967a]
97. Ansprache bei der Überreichung des
<Jung Codex>. [1953] (Ms.)
98. Brief an Pere Bruno O.C.D. [1953(Fr.)]-
1956(Fr.) (Brief(Fr.))
99. Brief an Pasteur Lachat. [1954(Fr.)]-
(Brief(Fr.))
100. Über die Auferstehung. [1954(E.)] (Ms.)
101. Zu K.E.Neumann: *Die Reden Gotamo*
Buddhos. 1956 (1956)
102. Vorrede zu Froboese-Thiele: *Träume -*
eine Quelle religiöser Erfahrung? 1957
(1957)
103. Jung und der religiöse Glaube. [1957-
(E.)]1958(E.) (1958(E.))
Alchemistische Studien(Ergänzungen zu
GW12,GW13,GW14):
104. Vorwort zu einem Buchkatalog über
Alchemie. 1946 (1946)
105. Faust und die Alchemie. [1949]1949-19-
50 (1950)
106. Alchemie und Psychologie. [1948]195-
1(Hebr.) (Ms.)
Über das Phänomen des Geistes in Kunst
und Wissenschaft (Ergänzungen zu GW1-
5):
107. Jerome Schloss zum Gedächtnis. [1927-
(E.)]1955(E.) (1955(E.))
108. Vorwort zu Schmid-Guisan: *Tag und*
Nacht. 1931 (1931)
109. Dr.Hans Schmid-Guisan: *In memoria-*
m. 1932 (1932)
110. Vorwort zu Schmitz' <Marchen vom
Fischotter>. 1932 (1932)
111. Existe-t-il une poésie de signe Freud-
ien? [?]1932(Fr.) (Ms.)
112. Vorwort zu Gilbert: *The Curse of Intel-*
lect. [1934(E.)] (Ms.(E.))
113. Vorwort zu Jung: Wirklichkeit der See-
le. [1933]1934 (1934) [J.1955b,1]
114. Vorwort zu Mehlich: *J.H.Fichtes Seele-*
lehre und ihre Beziehung zur Gegen-
wart. 1935 (1935)
115. Geleitwort zu von Koenig-Fachsenfeld:
Wandlungen des Traumproblems von
der Romantik bis zur Gegenwart. 1935
(1935)
116. Begleitwort zu Gilli: *Der dunkle Bruder*.
1938 (1938)
117. Gérard de Nerval. [1945]1945-1946
(1946)

118. Vorwort zu Fierz—David: *Der Liebestraum des Poliphilo*. [1946]1947 (1947)
119. Vorwort zu Crottet: *Mondwald*. 1949 (1949)
120. Vorwort zu Jacobi: *Paracelsus: Selected Writings*. [1949]1951(E.) (Ms.)
121. Geleitwort zu Kankeleit: *Das Unbewußte als Keimstätte des Schöpferischen*. Jungs Beitrag. 1959 (1959)
122. Vorwort zu Serrano: *The Visits of the Queen of Sheba*. 1960(E.)(Typ.(E.))
123. Y a-t-il un vrai bilinguisme? 1961(Fr.) (1961(Fr.))

Die Praxis der Psychotherapie(Ergänzungen zu GW16):

124. Besprechung von Heyer: *Praktische Seelenheilkunde*. 1936 (1936)
125. Besprechung von Heyer: *Der Organismus der Seele*. 1933 (1933)
126. Über das <*Rosarium philosophorum*>. [?]1936—1937 (1938)
127. Vorwort zu einer indischen Zeitschrift für Psychotherapie [*Psychotherapy*, I/1]. [1955(E.)]1956(E.) (1956(E.))
128. Über Bilder in der psychiatrischen Diagnostik. 1959 (1959)

Über die Entwicklung der Persönlichkeit(Ergänzungen zu GW17):

129. Vorwort zu Evans: *The Problem of the Nervous Child*. [1919(E.)]1920 (E.)(Ms.(E.))
130. Einleitung zu Harding: *The Way of All Women*. [1932]1933(E.) (Ms.)
131. Ein Gespräch mit C.G.Jung über Tiefenpsychologie und Selbsterkenntnis. 1943 (1943)
132. Geleitwort zu Spier: *The Hands of Children*. [1944]1944(E.) (Ms.)
133. Vorrede zur hebräischen Ausgabe von [Jung]: *Psychologie und Erziehung*. [1955]1958(Hebr.) (Ms.)

Addenda:

134. Vorwort zu *Psychologische Abhandlungen*, Bd.I. 1914 (1914)
135. Ansprache bei der Überreichung des Jung Codex [längere Fassung]. [1953] (Ms.)

GW19 BIBLIOGRAPHIE (1983)

1. Die veröffentlichten Schriften von C.G. Jung: Originalwerke und Übersetzungen
2. Die Gesammelten Werke von C.G.Jung The Collected Works of C.G.Jung
3. Die Seminare von C.G.Jung

4. ユング著作の邦訳状況について

現在は、書店にもユング関係の本が数多く並び、入手可能なユング著作の邦訳だけでも約40種あるということで、ユング・ブームとも言えそうな状況である。しかし、ユングが初めて日本に紹介されたのは、いつ、どんな形であったかということについては現在ほとんど知られていない。また、数あるユングの著作の中で、邦訳されているのがどのような種類のものなのか、それが時代と共にどう変化しているのか、というようなことはあまり意識されていない。今回のユング著作邦訳文献目録は、入門者のための文献案内という当初の役割を越えて、計らずもこれらの問いに答えるものとなった。

邦訳文献の一覧を見ると、大きく分けてほぼ3つの時期に分類されるように思われる。以下に、その時期ごとの特徴を述べることにする。

○第1期 (1910年代～1930年代)

現在確認されている限りで最も古いユング著作の邦訳は、1918年の『心理研究』に掲載された小熊虎之助によるものである。この時期の『心理研究』等では、翻訳ではないがユングの紹介がなされている。ユングはここでは精神分析の一派であるチューリッヒ学派の代表者として扱われており、その連想実験法が注目されている。この後、日本においても連想実験法に関する幾つかの研究が見られる。

従って、中村古峯による最初の単行本『ユング論文集』（1926年）が連想実験法に関するものであったことは、当時の状況をよく表しているといえるだろう。

中村古峯は、精神療養所を開いて自ら治療に当る一方、日本精神医学会・日本変態心理学会を設立し、雑誌『変態心理』を発行するなどの活動を行った人である。中村古峯の著作や翻訳には、神経衰弱、ヒステリー、催眠術などを扱ったものの他に、『変態心理と犯罪』、『大本教の解剖』、『天理教の解剖』といったものもある。『変態心理』の中には、先の小熊虎之助や森田正馬の名前も見られるが、特に小熊虎之助は中村古峯と同様の分野で活動を行い、『夢の心理』、『心霊学講義』、『心霊現象の科学』等の著書がある。このような中村古峯たちの活動の中では、ユングは、やはり連想実験法などの治療面で注目されており、翻訳も初期のブルクヘルツリ病院時代のもので中心である。

その点では、1931年に春秋社の『世界大思想全集』に入れられた『生命力の発展』は、同じ中村古峯の訳だが、少し違っている。これは、日本で初めて一般向けに、それも思想としてユングが紹介されたものであり、第2期以降の先駆けとも言える。同全集には、フロイトの『精神分析』も含まれているが、ユングの著書として『生命力の発展』（原題は「リビドーの変容と象徴」）が選ばれていることは興味深い。この著書を境にしてユングはフロイトと別れ、その後ユングがこの書を大幅に書き替えたことが現在では知られている。先の連想実験法にしても、これはユングがフロイトに出会う前のものであり、実際にはフロイトとの活動期以外のものを紹介しながらも、当時の日本ではユングは飽くまでフロイトの一派として扱われていたのである。

○第2期（1950年代～1960年代）

1930年代後半から1940年代にかけては全くの空白期であり、ユングの翻訳は1件も確認されていない。次の出版は1955年からの日本

教文社『ユング著作集』全5巻（高橋義孝、江野専次郎、西丸四方、浜川祥枝訳）になる。この『著作集』の出版は、初めてのまとまった形のものであり、実質上日本で最初のユングの紹介と言っても良いだろう。収録された論文は多岐に亘っており、ドイツ語版全集で言うと、6,8,9,10,11,15,16,17の各巻から採られている。この『著作集』の出版の背景には、心理学への関心の高まりやヨーロッパ等でのユングの注目などがあるのかもしれないが、ユング心理学はここでは、社会的な問題提起あるいは問題の解決のための手掛かりといった思想的・文明論的な意味合いで扱われているようだ。この姿勢は、これ以降引き続くユングの代表的な取扱い方である。また、翻訳者も、西丸四方以外はいずれも独文科出身の文学者・翻訳家であり、この点でも第1期とは違っている。

『著作集』以外のこの時期の邦訳としては、『著作集』中にもその訳がある高橋義孝の『人生の午後三時』（原題は「無意識の心理学」）がある。これは『著作集』にはない全集第7巻からの翻訳である。

1960年代は特に大きなものはなく、禅に関するものが数件出ているのみである。

○第3期（1970年代～）

現在のユング・ブームは、1970年代から始まる第3期の流れを汲むものであると思われる。ユング・ブームの走りとも言うべきものは1970年代後半にあり、雑誌『エピステーマー』（1977年）、『現代のエスプリ』（1978年）、『現代思想』（1979年）が相次いでユングの特集を組んでいる。また、この時期からユングの著作の邦訳が急に増えている。この第3期の始まりとなったのは、河合隼雄による『ユング自伝』（1972年、1973年）の翻訳である。その後、『心理学的類型』『世界の名著』（1974年）、『心理学的類型』（1986年、1987年）、『タイプ論』（1987年）、『分析心理学』（1976年）、『心理学と錬金術』（1976年）、『元型論』『ユングの象徴論』（1981年）、『元

型論』(1982年, 1983年)], 『自我と無意識の
関係』[『自我と無意識の関係』(1982年), 『自
我と無意識』(1984年)]等の著作の邦訳が
次々に出版されるようになる。

この時期の特徴としては、翻訳者として臨
床心理学の河合隼雄・小川捷之、思想史の林
道義・湯浅泰雄などユング心理学の専門家が
当たっていることが挙げられる。もちろん全
てがそうというわけではなく、第2期同様に
独文学者による翻訳も多くなされている。翻
訳される論文の種類も多くなっているが、比
較的初期の著作である全集1,2,3,4の各巻、
全集13,14巻の錬金術関係のものについて
は、あまり翻訳されていない。また、上記の
『心理学的類型』、『元型論』、『自我と無意識
の関係』や『ヨブへの答え』などのように、
同じ論文を複数の訳者が翻訳するという現象
もみられる。これは、興味が持たれる部分
がかなり偏っていること、また一種の流行り
があることを示している。

一方、ごく最近では、『心理療法論』(1989
年), 『心理学と宗教』(1989年), 『オカルトの
心理学』(1989年)等、今まで邦訳されな
かったものについての翻訳も行われるよ
うになっており、今後はこのような方向
での翻訳が進むことが期待される。

(注)

- (1) これ以外に、英語版では第20巻として
Generl Index が出版されており、また、
ドイツ語版・英語版ともに補巻としてセ
ミナー等が出版されている。しかし、補
巻についてはドイツ語版と英語版で内容
が異なること、現在のところ邦訳がない
ことを考慮し、今回のユング全集目次か
らは省いた。